

令和元年度 第1回 淀川区子ども教育会議 議事要旨

日時 令和元年7月3日(水) 19:00~20:10

場所 淀川区役所 5階 503会議室

出席者 委員： 内田 邦治 氏
岡田 崇 氏
久保 みのり 氏
泉水 清治 氏
辻川 松子 氏
平澤 拓也 氏
増田 裕子 氏
松村 祥 氏

事務局：	淀川区担当教育次長	山本 正広
	淀川区教育担当部長	中喜多 孝之
	淀川区教育担当課長	榊原 幸一
	淀川区教育担当課長代理	佐多 隆彰
	教育政策課担当係長	岡田 征憲
	教育政策課担当係長	澤田 眞理子
	教育政策課担当係長	石田 猛裕
	淀川区中学校長会 十三中学校長	屋島 豊市
	淀川区小学校長会 木川南小学校長	久保 敬

傍聴：4名

《会議資料》

- 資料1-1 H30 運営に関する計画 (区から依頼した取組の評価結果)【小学校】
【睡眠習慣改善に向けた取組】
- 資料1-2 H30 運営に関する計画 (区から依頼した取組の評価結果)【中学校】
【睡眠習慣改善に向けた取組】
- 資料1-3 H30 運営に関する計画 (区から依頼した取組の評価結果)【中学校】
【淀川漢字名人育成計画】
- 資料2-1 H31 運営に関する計画 区から依頼した取組の反映状況【小学校】
【睡眠習慣改善に向けた取組】
- 資料2-2 H31 運営に関する計画 区から依頼した取組の反映状況及び実施計画【中学校】
【睡眠習慣改善に向けた取組】
- 資料2-3 H31 運営に関する計画 区から依頼した取組の反映状況及び実施計画【小学校】
【淀川漢字名人育成計画】
- 資料2-4 H31 運営に関する計画 区から依頼した取組の反映状況及び実施計画【中学校】
【淀川漢字名人育成計画】
- 資料3-1 教育行政連絡会での校長アイデア
- 資料3-2 事件発生時における初動体制の意識共有の必要性
- 参考資料 淀川区役所 教育支援担当 2019年度実施事業一覧
- 資料4-1 学校協議会委員推薦にかかる「学校協議会 運営の手引」と淀川区独自ルール

	における推薦基準の違いについて
資料4-2	学校協議会委員推薦時のご注意《淀川区》
参考資料1	令和元年度第1回淀川区教育行政連絡会「小学校の部」議事要旨
参考資料2	令和元年度第1回淀川区教育行政連絡会「中学校の部」議事要旨
参考資料3	淀川区子ども教育会議委員名簿（令和元年8月1日）

《次第》

司会：教育担当課長

◎次長（区長）あいさつ

◎議題

- 1 平成30年度 各校の運営に関する計画（区依頼事項の振り返り）【公開】
- 2 平成31年度 各校の運営に関する計画（区依頼事項の反映状況）【公開】
- 3 次年度事業に向けたブレインストーミング【公開】
- 4 学校協議会委員の推薦基準について【公開】
- 5 情報提供【公開】
- 6 その他【公開】

・説明：次長（区長）、教育担当

・各議題について意見交換

挨拶

山本次長（区長）

本日は大雨の関係もあるので、次年度事業に向けたブレインストーミングを中心に議論し、8時頃を終了の目途とさせていただきたい。

最初に、旧淀川区役所跡地の活用方針についてご報告させていただく。区役所が移転して10年、私が淀川区長となってからも2年ほど経ったが、ようやく昨年度末に戦略会議で方針決定し、松井市長の了解を得て、4月中旬に活用方針の概要についてプレス発表した。「よどマガ!」6月号に掲載されているように、交流型ワイガヤ図書館を民間に建てていただく。定期借地方式で土地は大阪市が持ち、事業者に50年程貸し、毎年地代をいただく。民間に建てていただいた図書館部分のみを買い戻すという、自治体では恐らく初めての形態をとることで状況を整えた。6月28日から募集を開始し、翌年2月末頃には事業者を決定する予定。図書館だけでなく、周辺他施設とも連携できるようなアイデアを出してほしいとお願いしている。あとは、今ある駐輪場数を確保することを前提条件としている。良い図書館ができると思うので、ご期待いただきたい。

榊原課長

本日、大雨警報が発令され、気象庁の発表によると、夜遅くなるほど雨足が強まるとのことなので、20時の終了を目途に開催させていただく。

特に、議題の3つ目、「次年度事業に向けたブレインストーミング」について重点的にご意見をいただきたい。

今回が任期最後となる委員のみなさま方には、感謝申しあげる。新たに委員にご就任いただく委員には、傍聴ということでご足労いただき、感謝申しあげる。区役所における教育行政においては、地域の方、保護者の方に集まっただき、この淀川区子ども教育会議でアイデアを頂戴して具体化してきた。大変貴重な会議の場だと認識している。

議題1 平成30年度 各校の運営に関する計画（区依頼事項の振り返り）

議題2 平成31年度 各校の運営に関する計画（区依頼事項の反映状況）

榊原課長

淀川区では睡眠習慣改善に向けた取組「ヨドネル」や漢字検定の受検を契機に学習習慣をつけていただく「淀川漢字名人育成計画」の取組を行っている。区役所は運営方針に、学校では運営に関する計画に盛り込み、双方でPDCAを回すということで取組んでいる。平成30年度の振り返り、31年度の計画をまとめているのでご確認いただきたい。

議題3 次年度事業に向けたブレインストーミング

榊原課長

会議に先立ち各校長からアイデアをいただいているので紹介する。

小学校からは、家庭、学校生活でしんどい思いをしている児童・生徒のためのスクールカウンセラーについて、小学校長からの要望を受けて今年度から区予算で増配置したところ、校長先生からは感謝のお言葉をいただき、さらに増やしてほしいというご意見があった。スクールソーシャルワーカーは何か問題が起こった時に適切な相談場所を探したり、学校のフォローアップに努める立場の方々に、いつでも相談できる相談先を設置してほしいという要望があった。

区役所事業の「放課後学習事業」や「発達障がいサポート事業」のさらなる拡充についても要望をいただいている。

働き方改革に関わり、教頭補助について現行の期限付の配置から常態化していただきたいという要望もある。今年度からスタートしている教育委員会予算のスクールサポートスタッフについては、一部の学校で一般事務の補助として学校に入っており、さらなる拡充について要望をいただいた。その他、防犯カメラの設置や海外から受け入れた児童への日本語指導、遊び場の確保や夜間照明を設置してほしいといったご意見もいただいている。

中学校からは、学力向上支援として先駆的に取り入れている学校から事例の紹介があった。これについては、教育委員会でも似たような事業に取り組んでいるので、すみわけを行う必要があるが、区役所で予算化し、取り組んでほしいとのご意見があった。「漢字名人育成計画」については、引き続き取り組まれたいとご要望があった。職業体験先の確保に苦勞されているとごことで、区役所からも力添えをほしいとご意見をいただいた。学校からのアイデアは概ねこのような内容だ。

増田委員からこれに関し、事前にご意見をいただいているので、ご説明をお願いしたい。

増田委員

今年に入り市民の安全な生活を脅かす事案が発生する中、いろいろ考えるとところがあった。警備・安全管理に関する業務を想定するのか、または防犯カメラを設置するのかわからないが、対策が必要ではないかと思った。

職業体験については、各学校がそれぞれに動くよりも、区として職業体験先のバンクがあればよい。今まで職業体験の受け入れをしていない企業にも、区役所から広報があれば受け入れてもよいというようになるかもしれない。

榊原課長

委員のみなさま方からは別の視点でこういうものがあってもよいのではといったご意見はないか。

久保委員

見守り隊として毎日立たせていただいている。先日の川崎市の事件を考えた時、地域の見守りの方も高齢化してきている中で、どのような対応や対処をすべきか考えなければならない。スクールガードリーダーと言って、もと警察や警備されている方が各所に配置されるケースもあるようだ。何かあった時にどう対処してよいのかわからないので、見守り隊の方への研修が区であれば教えていただきたい。

山本次長（区長）

職業体験については、区役所と消防署では職業体験を受け入れているが、警察署はまだなので、署長に話してみたところ、快諾してくれた。交通安全のPRなどを体験していただけたらと思う。区の工業会や商店会連盟や、地活協など地域会議でも協力を要請したいと考えている。受ける側としても、どんな企業でどれぐらいの期間、どんな内容で受け入れるのかがわかればイメージしやすいと思うので、各学校に確認する。区としても積極的に呼びかけていきたい。

吹田の事件が起こった時、危機管理室から地域の見守り隊の方に見守りを強化するよう依頼があったが、鉄砲を持つ犯人に対し素手で向かっていくようなことは、あえてお願いしなかった。行政無線で1時間に1回、「犯人が逃走中なので、不要不急の外出は控える」「家にしっかり鍵をかける」「不審者を見たら110番通報する」の3点について放送を流したが、聞き取りにくいというお声もいただいた。区の青パトでも区内を巡回し注意喚起を行った。防犯面の危機管理策も今後考えていきたい。先ほどご意見をいただいた研修については、警察も協力していただけたらと思うので、検討する。

久保委員

中学生の子はスクールカウンセラーの貼り紙を見ており、いつ来ているのかもわかっていた。しかし、小学校3年生の子はよくわかっていない感じだった。小学校低学年にも悩んでいる子には、スクールカウンセラーがいるんだということがわかるような対策をしてもらえたらよいと思う。

榊原課長

スクールカウンセラーについて今までは中学校に行ってもらい、そこに小学校の子も行ってよいというシステムだったが、区役所の予算を使って小学校を回っていただくよう改めた。常駐ということはできなかったが、わかりづらい状態があるとのことなので、小学校の校長先生方やスクールカウンセラーとも話し合いながら、進めていきたい。

辻川委員

スクールカウンセラーの対象が地域の中学生と小学生となっていて、私学に通う子供たちは対象外と言われた事例があった。住んでいる所の中学校ではないが、私学に通う子どもたちもケアしていくのが大切ではないか。学校選択制になっているので、その地域の子どもが必ずしも校区の学校に通っていないことを踏まえながら、対応できるようなシステムが必要だ。小学校の校長室などの前には従来「教育相談」と札がぶらさがっているが、「スクールカウンセラー室」と混同している保護者もいると聞く。この二つのすみわけもはっきりしておくことが大事だ。

榊原課長

私立のお子さんもちろん区民でいらっしゃる。学校でのすみわけも確認しながらやっていきたい。

松村委員

小学校ではスクールカウンセラーが来るのがいつだというお手紙が配られていたと思う。保護者はわかっているが、子どもはあまりわかっていない。何を相談したらよいのかもわかっていないと思う。相談すればいいのにと私たちが思う子にもハードルが高いように思う。気軽に相談してもいいんだよという雰囲気作りをしてもらいたい。学校全体を見て、気になる子にスクールカウンセラーさんから声をかけてもらうのが一番だと思うが、いつもいるわけではない。子どもが自分から行くのは難しいと思う。できるだけ長い時間様子を見てもらえるようにしていただきたい。

職業体験について、協力してくれた企業さんが得をするようにすればどうか。学校のホームページですでに紹介されているが、「こちらの企業さんに協力いただいています」と、区で紹介するのがよいかもしれない。協力していただく企業さんのメリットになるようなお声がけをすればどうか。

山本次長（区長）

学校内でスクールカウンセラーをよく知ってもらえるような雰囲気作りは校長先生方と相談して進めていきたい。

職業体験に協力していただいた企業のメリットになるようにというご意見は、とても参考になる。具体的に進められたらと思う。

榊原課長

区役所にも職業体験に来てもらっており、教育支援担当の「ヨドネル」や「生涯学習」関係のディスプレイ、広報誌「よどマガ！」の関係で中学生記者として手伝ってもらった。中学生が今までどんな仕事を体験してきたのか、各中学校に調べているので、それを企業に提示していきたい。先ほどご意見いただいた企業のメリットという考え方はぜひとも活用し、企業にPRしていきたい。

泉水委員

防犯カメラの設置箇所は校内か。それとも、門のところか。

榊原課長

外向きのカメラのことではなく、出ていかないように内向きのカメラのこと。

泉水委員

三津屋小学校でも防犯カメラを導入し、職員室でモニターを見られるようにしようとしている。地域でもかなり防犯カメラ（見守りカメラ）を設置しているが、何か起こった時に後から引き出すことしかできない。もし、そのカメラと連携させて無線で飛ばし、校内で見ることができれば、コストも安くつく。カメラばかりについても後から見ただけなら、あまり意味がないと思う。

辻川委員

野中地域も地域振興の予算で、学校の門にカメラを設置しており、映像は1週間保存できる。防犯カメラがあるだけで、何かあった時に安心できる。防犯カメラの普及についてはもう少し力を入れていくことが大事だと思う。

榊原課長

既存のものの活用という視点は欠けていた。普及に向けて今後検討していきたい。

辻川委員

スクールカウンセラーの件で、十三中学校しか知らないが、部屋に入るとほっこりとして話をしようかなという雰囲気になっている。どこの中学校でも雰囲気作りはされていると思うので、まずは名称をどうするか、子どもや保護者にフィットするような名称が大事なかなと思う。

増田委員

区独自の日本語指導について、指導が必要なお子さんということは恐らく、ご家族に対しても日本語のサポートが必要ではないかと思う。スクールソーシャルワーカーとも連携できるような仕組みができればよいと思う。

山本次長（区長）

淀川区は入っていないが、大阪市の7区が先行して「こどもサポートネット」事業を実施している。課題を抱えているお子さんが長い時間を過ごすのは学校なので、学校で一人一人のスクリーニングシートを作って課題を記すということをやっている。そこには日本語指導が必要だという情報もあると思う。また専任のスクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーを配置するので、連携していけると思う。今後24区で取組んでいこうとしており、来年度から淀川区でも取り入れられるよう準備を進めている。

岡田委員

スクールカウンセラーについて、5週に1回しか来ていただいているのは恐らく十三中学校下だと思う。話しやすい雰囲気を作るのに5週空くのはあまり好ましくないと思う。予算を確保できるなら、もう少し人員を増やしていただきたい。

子どもの遊び場がないという意見は、木川南小でも該当する。木川南公園にはフェンスもない。子どもたちが走り回って、その勢いで道路に出ることもあり非常に危ない。フェンスを設置してほしいという要望を担当部署に働きかけていただきたい。淀川河川敷沿いの道路に、もう少し信号があるとありがたい。

榊原課長

すぐに変えることは難しいと思うが、声を上げることは大切で実現する可能性も出てくると思う。区だけで取り組むのは難しいが、いただいたご意見はすべて関係部署と共有し、実現できればと考えている。

吹田の事件時のご意見を増田委員から事前にいただいているので、ご説明をお願いしたい。

増田委員

6月16日、日曜日早朝に起こった吹田交番襲撃事件時の地域での対応についてお話をさせていただく。私の住む新東三国地域は川を隔てて吹田と隣り合わせでもあり、それぞれがなんだかもやもやした一日を過ごした。6月22日の地域活動協議会の運営委員会で小中学校のPTA会長さんから「吹田の事件についてそのままにしてよいのか」という提案があった。災害や台風の際は事前にこう動こうと話していたが、防犯に関しては緊急事態が起こった場合の初動体制について何も申しあわせていなかったと話合った。今後どうしていくべきか、地域でできることは「外出を控える」ということを訴え続けること、これが大事だったのではないかと話している。見守り活動に関して、教育委員会から見守りを強化するよとのメールが来たが、学校の先生、PTA、地域で見守りを強化するのは、どうなんだろうかと話合った。

事件当日の午前中に連絡を取り合っている中で、午後からの行事は中止しようかとみんなで決めた。吹田市では朝7時の時点で、翌日犯人が捕まっていなければ9時まで自宅待機とし、学校は休校とする、という通達が16日9時の段階であったが、大阪市では連絡があったのは夜の9時頃だった。大阪市が広いというこ

ともあり、新東三国地域のようにドキドキハラハラする場所もあれば、遠い南の方では平和に過ごしていたかもしれないが、もう少し早くに判断してほしい。区長が大きな会議に出席する際には、こんな話があったと伝えてほしい。

また、防災行政無線の音がほぼ聞きとれたという人には出会っていない。聞き取れなかったということで、かえって不安になった方がたくさんいたのではないかと。今回のように全国的なニュースになっている場合、テレビのテロップで「大阪市内にただいま防災行政無線で話している内容は〇〇です」と流してくれると、区役所に不必要に電話をする人も減ると思う。漢字表記の「交番を襲撃しました」や「拳銃を奪いました」という内容は、外での無線では聞きづらかった。事件の時は、やさしい日本語に直すということは難しいと思うので、やはりテレビのテロップに出してもらおうと、みんなが安心する。災害時にはよく「正常性のバイアス」が出て、自分は大丈夫と思いがちだが、不安ではないか、大丈夫ではないのではないかと声をみんなですること、子ども会の行事を中止にすることもできた。発信のシェアをするだけだが、不要な外出は避けるということを訴え続けられるような取り組みはしていきたい。他にこんな動きがあったとか、こうした方がよいといったアドバイスをいただけるとありがたいので、情報提供させていただいた。

山本次長（区長）

大阪市の判断について、校長先生方からも決定が遅かったと聞いている。私自身もおかしいと感じている。隣接市もそうだが、大阪府で府立高校の方針が早くに出た。高校生が守られているのに、なぜ幼稚園や小中学校でなかなか方針が出なかったのか、課題だと思う。防災行政無線は確かに聞き取りにくいので、アナログをデジタル化しようと試みているが、どれだけ改善できるかわからない。各地域の防災訓練で私がお話をさせていただいていることだが、情報が命を左右するので、個々の家庭でテレビやラジオ、停電になる場合も想定して、せめてラジオは置いてくださいと皆さんにお願いしている。幼稚園は小中学校と同じく休園、保育所は開園と決めたが、NHKが保育所も休園と誤って放送したので、すぐに訂正を申し入れたが、データ放送での訂正しか流してくれなかった。市内でも南北があるが、24区として早くに対応は出すべきだったと思う。いただいたご意見は伝えていきたい。

増田委員

もう一つは、無線放送の「最初の合図」（チャイム）が今は1種類と聞いたので、できれば事件や災害が別のチャイムになるとわかりやすいと思った。災害でも風水害や地震で別の合図があれば、聞き取りやすいと思う。

榊原課長

校長会でも話があったが、保護者に一斉メールが出せる学校と出せない学校がある。自分のスマホから発信できる学校はすぐに一斉メールを送れるが、できない学校は一旦学校に出向いてメールを発信する必要があり、2回出向いている校長もおられた。課題も出てきたので、いただいたご意見は整理し教育委員会に投げていくと同時に、区でできることは一歩でも前へ進めるようにしたい。

泉水委員

NHKでは地震が起こると地震用の音が鳴るが、それと同じように防災無線も大阪市で統一して地震と事件で最初の音を分けるようにするとよい。そうすれば、聞き取りにくくても、音さえわかれば事件か地震かわかる。

増田委員

救急車と消防車の音も違うので、わかるのがよいと思う。

議題4 学校協議会委員の推薦基準について

榊原課長

淀川区は先行して実施してきた経過もあり、区の推薦基準は大阪市のルールと少し違うところがある。大阪市では保護者の割合を決めていないが、淀川区では委員数の半数以上としている。学校の話をする協議会なので、半数以上は保護者に入っていたらいいという趣旨がある。当初、地域の会長等の前ではなかなか発言しにくいというご意見もあったので、このようなルールとした。市のルールでは教職員も委員として任命できるが、淀川区では有識者とし、オブザーバー参加ということにしている。教職員が意見された場合、専門家の意見に間違いはないだろうといったバイアスもかかるので、保護者の方のご意見を大事にするという趣旨でこのようにしている。

今は共働きやひとり親家庭が多く、実際のところ半数以上保護者を確保するのが難しく、実態と乖離しているのではというご意見があった。絶対的なルールということではないが、どうしても半数以上を満たせないということであれば、理由をきちんと説明いただいたうえで区でも了承している。ただ、淀川区では保護者枠を拡大し、保護者のOB（卒業後3年以内）も保護者枠とみなしている。

委員の皆様の思いや感覚をご教示いただきたい。主に保護者を半数以上にすることについては、いかがか。

泉水委員

この学校協議会制度ができる前に学校評議会という制度があり、地域の主だった方々がメインになっていた。今でも地域の主だった方々があて職のように学校協議会のメンバーになっていることが多い。その辺は考えていく必要がある。保護者半数以上というルールは絶対必要だと思う。

久保委員

保護者の方は入った方がよい。女性が出にくいという面はあるかもしれない。私が委員になっている学校では、自分も含め2名しかおらず、あとは全員男性。もう少し女性の枠を増やしていただけたらと思う。どのようにして委員が決まっているのか、あまりわからない。

榊原課長

校長先生と区長とで推薦して委員を決めている。自薦でも校長先生や区長に言っていただくのはあり。女性に入っていただくのは、校長先生の集まりでもご意見としてご紹介したい。

久保委員

子ども教育会議委員として参加させていただき、学校協議会でもということで委員をさせていただいている。例えば、自分が任期満了となる時に、他薦で次の学校協議会委員を推薦することは可能か。

榊原課長

校長先生に次の学校協議会委員にはこの人がよいと推薦していただければ、多分意見は汲み取っていただけたと思う。学校長と区長が同じ思いで推薦しますという形をとって推薦しているので、区長にも言っていただいてよい。学校からも委員のなりてを探すのがなかなか難しいとの声があるので、推薦していただきたい。

久保委員

ずっと委員をされている方もいて、いつやめるのか、やめ時がわかりづらい。一番最初からいらっしゃる方もいるが、かわっていかないとその時その時の流れや時代に合ったものになっていかない。

榊原課長

大阪市として任期は2年以内となっているが、淀川区では原則4年以内としており、理由書を出していただければ再度の任命も可能としている。

区としては子ども教育会議でもずっと同じ方に意見をお聞きしたいという思いもあるが、学校協議会委員への手前、きっちり任期満了で交代してもらおうと思っている。いただいたご意見は学校にお伝えしたい。

辻川委員

男女比についてはバラバラで、一概にすべての学校が、女性が少なく男性が多いということではないと思う。小学校は女性が多い。任期はあることがとても大事だと思う。当事者である保護者がものを言わないことはとても良くない。保護者の割合については、現状の半数以上を保つことは非常に大事だ。

榊原課長

学校にはいただいたご意見を伝えていきたい。全体にわたって何かご意見はないか。

久保委員

「ヨドネル」の啓発リーフレット作成について、内容は具体的に決まっているのか。

榊原課長

大阪市立大学の水野先生と連携してアンケート調査を行い、事業を展開してきたが、2月に寝具メーカーの西川株式会社と三者連携を締結し、西川株式会社の持つ民間のアイデアをいただきながら啓発リーフレットを制作しているところだ。12月の「ヨドネル睡眠強化月間」に合わせてリリースできればと鋭意作成中だ。役所が製作するものとは若干違うものを考えているので、ご期待いただきたい。リリースした後でみなさんにお配りする予定だが、こうしたらよいかのご意見があれば、その時にいただきたい。

久保委員

ヨドネルについては各学校の睡眠週間などで取組んでいる。私も含め「早く寝なさい」ばかり言っているような気がしているが、そもそも睡眠はなぜ大事なのか、睡眠がとれないとどうなるのか悪い点もわかりやすくなっていると、この取組も充実するのかなと思う。

山本次長（区長）

少し前に区内中学校の生徒会の交流会「ヨドネルサミット」で子どもたちに考えてもらったが、「きちんと寝ないと背が伸びない」というのが一番インパクトがあると言っていた。そんな感覚が一番大事だと思う。

久保委員

リーフレットを配られた時でもよいが、配るだけでは浸透しないと思う。せっかく予算を使って作るので、それを基に子どもたちが家で話し合えないと意味がない。親の寝る時間が子どもの睡眠時間に影響するというデータも出ているので、例えば、保護者の寝る時間を書く欄を作るとか、なにかしら家族で話し合えるものにしていただけるとありがたい。

榊原課長

今回、区から西川株式会社にリクエストはあまりしていない。西川株式会社に区役所の現状をお知らせして、向こうで組み立ててもらうやり方だ。睡眠を学校で取組むのはなかなか難しく、ご家庭の話だと思っている。西川株式会社には、子どもが家庭へリーフレットを持ち帰った時に、保護者に興味を持っていただけるようなものを作ってほしいとリクエストしている。ご覧いただいて何かご意見があれば、お伺いしたい。

久保委員

わが家ではこんなことをして早く寝るようにしているとかを紹介できるコーナーがあればよい。小学校3年生と中学生では寝る時間が違うので、学年ごとに違う工夫があれば教えていただけるとありがたい。

榊原課長

今回まで委員を務めていただいた方々、ありがとうございます。新しく委員にご就任いただく方々には次回からよろしくお願いいたします。

本日は、これで終了する。

議題5 情報提供

議題6 その他

※大雨警報発令中により時間を短縮して開催したため、資料配付のみ。